

登別中学校

第4回学校適正配置に関する地区別検討委員会 議事録

日時 令和5年4月12日（水）18時00分

会場 観光交流センターヌプル（2F）多目的室A

出席者 （委員）

飯尾委員、岡崎委員、勝間委員、日野委員、福富委員、斉藤委員、畠山委員、
中川委員、川西委員、太田委員、須賀委員

（事務局）

森元部長、菅田参与、館下次長、近間総括主幹、南雲建築主幹、西川原総括主幹、
秋葉学務主幹、林担当員

【議事録】

○中川会長 時間となりましたので、登別中学校の第4回学校適正配置に関する地区別検討委員会を開催いたします。では、さっそくですが、お手元の会議次第に基づき進めていきます。最初に教育長より、ご挨拶をお願いします。

○教育長 お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。さて、登別市教育委員会では、令和3年8月、「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」を策定し、今後35年間における学校配置のあり方をお示ししました。この中で、登別中学校については、幌別中学校との統合を想定したわけですが、これはあくまで生徒数の推計に基づいて考えたものに過ぎません。どのような形で登別地区の教育環境を維持していくかは、地域の皆様のご意見を伺いながら、対話を通じて決めていくべきものと考えております。

このため、令和3年10月以降は、保護者や地域住民有志の皆様で組織された、この地区別検討委員会で協議いただけてきました。さらに昨年4月以降は、教育環境部会とまちづくり部会に分かれ、それぞれの観点から検討いただきましたが、両部会の議論がまとまりましたので、本日、地区別検討委員会としての協

議を再開するため、皆様にお集まりいただくことになりました。

登別中学校区は、登別地区だけでなく、登別温泉地区やカルルス地区を含む広い地域を対象としており、また、まちづくりに関する活動が特に盛んな地域でもあります。このため、教育環境の面では統合が望ましいとする意見が多かった反面、まちづくりの面では統合に反対する意見が多かったと聞いております。

もちろん教育委員会としても、学校がまちづくりの面で大きな位置を占め、シンボリックな意味合いが強いことは理解しておりますが、学校は第一に子どもたちの学びの場でありますので、まずは子どもたちのことを考え議論いただければと思います。その上で、仮に統合で地域に影響が生じる場合には、市としても、地域の皆様とともに対応策を考えていきたいと思っております。

委員の皆様におかれましては、この点も理解いただき、登別中学校の統合の是非に関し議論を深めていただければと思っております。教育委員会といたしましては、委員会としての意見がまとめられた際には、その意見を踏まえ、学校設置者として責任を持って判断させていただきます。それでは本日は、限られた時間ではありますが、活発な議論をよろしくお願いいたします。

○中川会長 ありがとうございました。教育長におかれましては、この後の予定がございますので、この場で退席させていただきます。

○中川会長 本日は、登別観光交流センターヌプルで開催する運びとなりました。ヌプルオープンまでの道のりを振り返りますと、平成23年度の地区懇談会で地域の皆さんから要望があり、その後は観光・まちづくり協議会を中心に地域一丸となって取組を進め、それがヌプルオープンという成果に結実しました。今後も、この地区のまちづくりについては、地域として力をひとつにして取り組んでいかなければならないと考えております。

さっそく会議次第にしたがって進めていきます。地区別検討委員会本体の会議としては、前回から約1年、間が空いてしまいました。この間、委員の皆さんには、教育環境部会とまちづくり部会、2つの部会に分かれていただき、それぞれの観点から、登別中学校の今後のあり方や幌別中学校との統合の是非に関し検討

いただきました。

各部会においては、かなりの時間をかけて議論いただきましたが、それぞれ部会としての結論がまとまったとのことですので、本日は、まずは部会長から両部会の議論のまとめに関し報告いただき、その内容について質疑応答などを行った後、両部会の議論の結果を踏まえ、意見交換を行っていききたいと思います。皆さんの貴重な時間をいただいている会議になりますので、1時間半を目途に終わられればと思っております。ご協力をお願いいたします。

それでは、意見交換に入る前に、会議次第3の報告事項として、両部会長から各部会の議論のまとめを報告いただき、その内容に関し質疑応答を行っていききたいと思います。はじめに、教育環境部会の議論のまとめについて、飯尾部会長より報告をお願いいたします。飯尾部会長よろしく申し上げます。

○飯尾部会長 教育環境部会の部会長の飯尾です。どうぞよろしくお願いいたします。結論からいいますと、教育環境部会としては、令和7年度を目途に、登別中学校と幌別中学校を統合する、両校の校区を一つすることが望ましいというまとめになりました。この地区から中学校が無くなることは寂しいし、残したいという気持ちもある中での結論ではありますが、統廃合を経験した先生や生徒、統合当時の保護者や現役の保護者、いろんな方からお話、意見を聞いた結果です。当然良い面、悪い面はありますが、子供たち自身は与えられた環境の中で楽しく生活してはいるものの、学校祭や体育祭を見ても分かる通り、生徒数が少なく、私たちの学生時代の環境、イメージとはまったく違います。例えば、委員会活動にしても、生徒数自体が少ないので、毎年度同じメンバーになってしまいますし、授業の面でも、専門の先生が居ないのはどうなのかと思います。また、部活動も3つしかなく、自分のしたいことをできる環境ではありません。それと一番問題だと思っているのは人間関係についてで、人数が少ないので仲良くせざるを得ない。仲間はずれになってしまうので、人に合わせなきゃならない。どの程度の人数だったらいいのかはもちろん何とも言えない部分ではありますが、私の娘からもそうしたことを聞いております。そうした部分を受け止めれば、1日でも早く統合、校区拡大を検討していただければと思ったところです。さきほども言いましたが、この

地区から中学校が無くなることに関しては、寂しい部分もあるわけですが、本年度の新1年生が14名、全生徒数で60名程度。次年度の新1年生は10数名なんです。女子が4名しかいないという状況です。また、さらに先に目を向けても、本年度の小学校1年生が、男子10名、女子10名の20名。次年度も概ね同じくらいで、その後もその程度で推移していく状況で、中学校の全校生徒としても、やはり60名程度で推移していくものと思われます。そうしたことを考えれば、寂しい部分はありつつも、統合、校区拡大を考えざるを得ないと考えております。以上です。

○中川会長 飯尾部会長、報告ありがとうございます。それでは引き続きまちづくり部会の議論のまとめについて、成田部会長より報告をお願いいたします。

○成田部会長 まちづくり部会部会長の成田です。結論から言いますと、まちづくりの観点からは、統合には反対という意見をまとめました。ここに至るまでは、教育環境部会と同じく、商工会議所、観光・まちづくり協議会、コンベンション協会、旅館組合など、各団体の皆さんからご意見を伺いました。皆さんからは反対、賛成、両方のご意見を伺いました。さらに地元の企業の方々、北海道コンクリート、ジェイコー、マリンパーク、時代村、三愛病院の皆さんからお話を伺いましたが、その際には、我々まちづくりに携わってきた人間にとっては、非常に厳しい意見、まちに魅力が無いから、若い人間が定住しないのではないかと非常に厳しい意見をいただきました。これに関しては、我々としても、真剣に考えていかなければならないと強く思ったところです。それら様々な意見を伺い、議論した結果、地域から義務教育の一角である中学校が無くなってしまっただけでは、子育て世代にいつそう選ばれなくなってしまうのではないかと考え、まちづくり部会としては、統合に反対し、真剣に地域の活性化を議論していこうというまとめになりました。ただ、この委員会は、あくまで統合の是非に関し検討するためのものですので、地域の活性化を議論するにあたっては、新しい協議体を立ち上げて、市のまちづくりに関する部署にも協力いただきながら議論していかなければならないと考えています。人口の減少、子どもの数の減少は登別市だけの問題ではなく、日本

全体がこの問題に直面しているわけですが、地方の小規模自治体では、人口が増えているところもあるということで、そうした例も研究しながら、何とか秘策を見出して、中学校を存続させていきたいという結論になりました。以上報告とさせていただきます。

○中川会長 成田部会長、ありがとうございます。ただいまご報告があった両部会の議論のまとめの内容に関し質疑応答を行いたいと思いますが、各委員の意見については、会議次第4の意見交換でお伺いすることになっておりますので、あくまで報告内容に関する質問という形でお願いします。また、各部会では、それぞれの観点から議論を尽くしてきておりますので、部会の結論を否定するような質問は控えていただきたいと思います。質問がある方は、その旨をご了解の上でお願いいたします。

(質問なし)

○中川会長 それでは次に会議次第4の意見交換に移ります。ただいま両部会から、教育環境とまちづくり、それぞれの側面から、登別中学校統合の是非に関し協議した内容について報告がありました。教育環境部会からは、良好な教育環境を確保するためにも、両校を統合することが望ましいとの報告がありました。対して、まちづくり部会からは、まちづくりへの影響を考慮して統合に反対し、存続のために地域活性化に取り組むべきとの報告がありました。ある意味で正反対の結論になってしまったわけですが、これに関しては、あくまでそれぞれの観点から検討した結果ということであって、今後は、委員会本体として、互いの立場に理解を示しながら意見を交換し、両部会の一致点を探っていくこととなります。その方向性に関し、委員の皆さんから意見を伺いたいと思いますが、各部会では、それぞれの観点から議論を尽くしていただきましたので、各部会の結論を一方向的に否定するのではなく、あくまでも互いの部会の議論を尊重した上で意見を交わしていただければと思います。それでは、委員の皆さんから、意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか？

○中川会長 委員の皆さんには、この間、お忙しい中一生懸命議論いただきまして、その結果、さきほど両部会長から報告のあったまとめになったものと思います。そうした意味では、統合に関する意見は出尽くした部分もあるかもしれませんが、皆さん、いかがでしょうか？

(意見なし)

○中川会長 本日のところ、あらためての意見は無いようですが、子どもの数が減少し、現実として教育現場に影響が生じていることを考えると、統合が望ましいということになる一方、この地区に住み、ここに根差してまちづくりに携わっている立場からは、地域への影響を考え、統合に反対する意見が大勢を占めている状況だと思えます。さきほども申し上げたように、ある意味で両者の意見は対立しているわけですが、だからといって膠着状態のままというわけにはいきません。このままでは子供たちの教育環境はよくなりませんし、子どもの数はいっそう減っていくこととなります。地域の将来、特に子どもたちの将来を考え、地域としてよりよい結論を見いださなければならないと思っております。本日は委員会本体としての協議再開、1回目でございますので、次回以降も引き続き委員会としての意見交換を続けていきたいと思っております。

最後に会議次第4の「その他」について、事務局より何かありますでしょうか。

○事務局 会長よりありましたとおり、本日は、委員会本体としては、再開一回目の会議でありましたので、次回以降、本格的な議論になっていくものと思います。そこで次回の日程についてですが、次回につきましては、5月24日(水)、時間は、本日同様18時からと考えておりますが、場所につきましては、会場の都合により、本日の会場であるヌプルの多目的室を利用することができませんので、登別市コミュニティセンター明和園で開催したいと考えております。詳しい内容につきましては、別途書面でお知らせいたします。

○中川会長 事務局からありましたとおり、次回以降、委員会としてももう少し意見交換を重ねていきたいと思えます。各部会でそれぞれの観点から議論いただいた内容、そのまとめは、教育環境、まちづくり、それぞれの方向から考えれば否定できないものだと思います。ただ、委員会としては、やはりひとつの結論をまとめなければなりませんので、今後1～2回の会議の中で議論をまとめていければと考えております。私個人の考えを少し述べますと、成田部会長がおっしゃったとおり、人口減少対策、地域活性化対策に取り組むことは必要だと思っておりますが、これに関しては、10～20年という長いスパンで考えることも必要でしょうから、統合に関する委員会とは別に、この地区全体のまちづくりに関する協議会のようなものを立ち上げて取り組んでいくことが必要ではないかと思っております。いずれにしても、次回以降、本格的な議論に入っていくこととなりますので、よろしくお願いいたします。それではこれをもちまして、第4回目の地区別検討委員会を終了いたします。皆さん、お疲れさまでした。